

「TOMODACHI アフラック プログラム」米国への派遣医師を決定

～ 小児がん研究に携わる医師の米国留学助成制度として ～

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長:外池 徹)は、このたび、日米交流事業「TOMODACHI イニシアチブ」(<http://usjapantomodachi.org>)の一環として展開する米国留学助成制度「TOMODACHI アフラック プログラム」において、聖路加国際病院小児科の医師である細谷要介氏を米国に派遣することを決定しました。

2013年6月12日(水)、米国大使館で開催された同大使館主催のレセプションパーティーには、ジョン・ルース駐日大使をはじめ、Aflac 米国本社 CEO のダニエル・エイモスや当社会長のチャールズ・レイク、社長の外池徹などが出席。エイモス CEO は「TOMODACHI イニシアチブへの参加機会をいただいたことを誇りに思います。このプログラムは、アフラックにとって、小児がんとの闘い、日米関係の二つの分野で行動を起こすことができる素晴らしい機会となります」などと述べました。また、細谷氏は「米国での小児がん治療を肌で感じ、留学後は米国での経験を活かし、東北地方、ひいては日本全体の小児がん治療をさらに良くしていきたいと思っています」と抱負を語りました。細谷氏は、2013年8月から2014年1月の半年間、Aflac 米国本社が支援する「アフラックがん・血液病センター」(米国ジョージア州アトランタ)に留学し、同センターが実施するプログラムの研修に取り組み、アフラックは細谷氏に対して奨学助成を行います。

◆細谷要介氏略歴

聖路加国際病院小児科医師。2002年3月に東北大学医学部卒業。日本赤十字社医療センター小児科研修医、国立成育医療研究センター総合診療部レジデント、同血液腫瘍科フェローを経て、2011年4月より聖路加国際病院小児科勤務。東京都出身。1975年生まれ。38歳。

◆<TOMODACHI アフラック プログラム>概要

【TOMODACHI イニシアチブとは？】

米国政府・米日カウンシルの主導のもと、東日本大震災後の復興を支援するとともに、長期にわたり日米間の文化的・経済的な結び付きを強化し、友好を深めるかたちで投資を行う官民によるパートナーシップ。夢を持ち、その実現に向け計画を立て実行する日米の将来の世代、すなわち互いの文化や国を理解し、成功と社会への貢献に必要な世界中で通用する技能と国際的な視点を備え、日米関係の将来に深く関わる「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。

【TOMODACHI アフラック プログラム】

目的	米国における最先端の小児がん研究の経験を通じ、日本での治療・研究に役立てる
対象者	小児がんの基礎、診断、治療等の研究に携わる日本在住の医師 (40歳未満／東北地区の医師を優先)
派遣期間	2013年8月～2014年1月 ※次回の派遣については、今秋をめどに検討中

※ 派遣医師の選考については、「日本小児血液・がん学会」の協力のもと、「TOMODACHI アフラック プログラム」選考委員会(委員長:小児血液・がん学会理事長 石井榮一氏)で行いました。

※ 本プログラムの事務局は、認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク(東京都新宿区下落合 3-2-12-302/03-3952-2640)が務めています。